

私のカルテ

No. 396

ヘリコバクター・ピロリ

津島市民病院
消化器内科医師鵜飼
あきひろ
明宏

オーストラリアのウォーレンとマーシャルという2人の医師によってピロリ菌が発見される以前は、胃液には強い酸が含まれているため胃内には細菌はいないと考えられてきました。ピロリ菌の発見以降、胃潰瘍等の胃の疾患にピロリ菌が関連していることが明らかになってきました。

ピロリ菌の正式な名前は「ヘリコバクター・ピロリ」(Helicobacter pylori)といいます。「ヘリコバクター」の「ヘリコ」は「らせん形」を意味する「ヘリコイド」からきた言葉で、ヘリコプターの「ヘリコ」も同じ意味です。「バクター」は「細菌」を意味する「バクテリア」のことです。「ピロリ」とは、胃の出口のほうをさす「幽門(ゆうもん)」のことで、多くがそのあたりで見つかることに由来します。つまりピロリ菌の名前は「幽門にいるらせん形の細菌」という意味です。

ピロリ菌はどのように感染するのか。ピロリ菌に感染しやすいのは乳児期と言われています。ピロリ菌の感染経路ですが、家族内感染が多く、親が子どもに口移しでご飯を与えた際など、口から口に感染することがあります。また、糞口感染ぶんこうという便からの感染は途上国で認められません。

ピロリ菌関連疾患としては胃がん、胃潰瘍、十二指腸潰瘍等が挙げられます。その中でもピロリ菌感染は胃がんの確実なリスク因子と言われており、ピロリ菌が感染していない胃からの胃がん発生は極めてまれです。ピロリ菌が感染している胃は萎縮し、その進行に伴い胃がんのリスクは上昇します。

ピロリ菌検査には様々な種類のものがあります。迅速ウレアーゼ法は内視鏡で胃の組織の一部をとり、ピロリ菌がもつウレアーゼのはたらきで作られるアンモニアの有無を調べます。尿素呼気試験法は吐き出した息を用いて調べる方法です。ピロリ菌がもつウレアーゼのはたらきで作られるCO2の量を調べます。抗体測定法は尿や血液のピロリ菌に対する抗体を調べる方法です。いずれも保険適応で検査が行えるのは胃・十二指腸潰瘍、胃MALTリンパ腫、特発性血小板減少性紫斑病、早期胃がん内視鏡治療後の患者さんです。

ピロリ菌検査から除菌までの一連の流れは、まずピロリ菌感染検査を行い、そこで感染していれば一次除菌療法を行います。その数カ月後に除菌判定を行い、除菌が失敗の場合、二次除菌療法に移ります。

ピロリ菌除菌後の注意点として、除菌で胃がんの発生はゼロにはならず、除菌後もピロリ菌の再感染の可能性があるとことが挙げられます。したがって除菌後も定期的な内視鏡検査が必要となります。

